

事例研究報告

特別支援学校小学部の児童に コミュニケーションスキルを教える

生徒の実態

- 知的障がいがある小学部児童
- あそびの場面でほしいDVDや絵本がある時に、教員の手を引くといった、クレーンで要求が伝わらず、教員が要求と違う物を提示した時に、教員を叩いたり蹴ったりする行動が見られる。
- 苦手な課題や5分以上着席する課題の時にも、教員を叩いたり、蹴ったりする。

教員の考え

「適切なコミュニケーション方法を身につけさせたい」

「問題行動を減らしたい」



アドバイザーからの助言

「問題行動」については

「コミュニケーション」

に置き換えて、指導を始めましょう。



指導目標の見直し

【長期目標】

- ・要求を適切に伝える。
- ・活動に参加する。

【短期目標・指導目標】

- ・あそびの場面で、コミュニケーションカードを使って教員に要求を伝える。
- ・苦手な活動にも取り組む。

減らしたい行動

要求が通らなかつたり、したくない活動があつたりすると、教員を叩いたり蹴つたりする。

指導1:コミュニケーションカードを用いた指導

【対象児】小学部児童

【指導場面】

日常生活の指導

課題学習

待ち時間のある授業(音楽・生活単元学習など)

【教材】

・コミュニケーションカード

「てつだってください」、「あそんでください」、

「〇〇のDVDをとってください」、「リモコンをとってください」、「ひとりにしてください」

・待ちグッズ(絵本やミニカーなど)

指導1:コミュニケーションカードを用いた指導

【STEP-I】

- ①要求のクレーンが出ると、身体的ガイダンスでコミュニケーションカードを教員に手渡す。
- ②大いにほめ、「分かりました。」と言ってDVDなど要求する物を渡す。

【STEP-II】

- ①要求のクレーンが出ると、コミュニケーションカードを指さしたり、「カードは？」とことばかけをしたりする。
- ②コミュニケーションカードを手渡すと、大いにほめ、「分かりました。」と言ってDVDなど要求する物を渡す。

【STEP-III】

- ①コミュニケーションカードを手渡すまで待つ。
- ②コミュニケーションカードを手渡すと、大いにほめ、「分かりました。」と言ってDVDなど要求する物を渡す。

指導2: 見通しの持てる指導の導入

- 待ち時間がある授業は、待ちグッズ(絵本, ミニカーなど)を用意する。
- 児童の実態に応じた、活動難易度や量の設定を行う。
- スケジュールの理解を促す指導の実施。
 - ・日常的なスケジュールの指導
 - ・課題学習での順番の概念の指導

記録方法と記録

他害行動があった時間や教科・場面・行動内容・どう対処したかを記録します。集計時には他害を機能別に分類します。

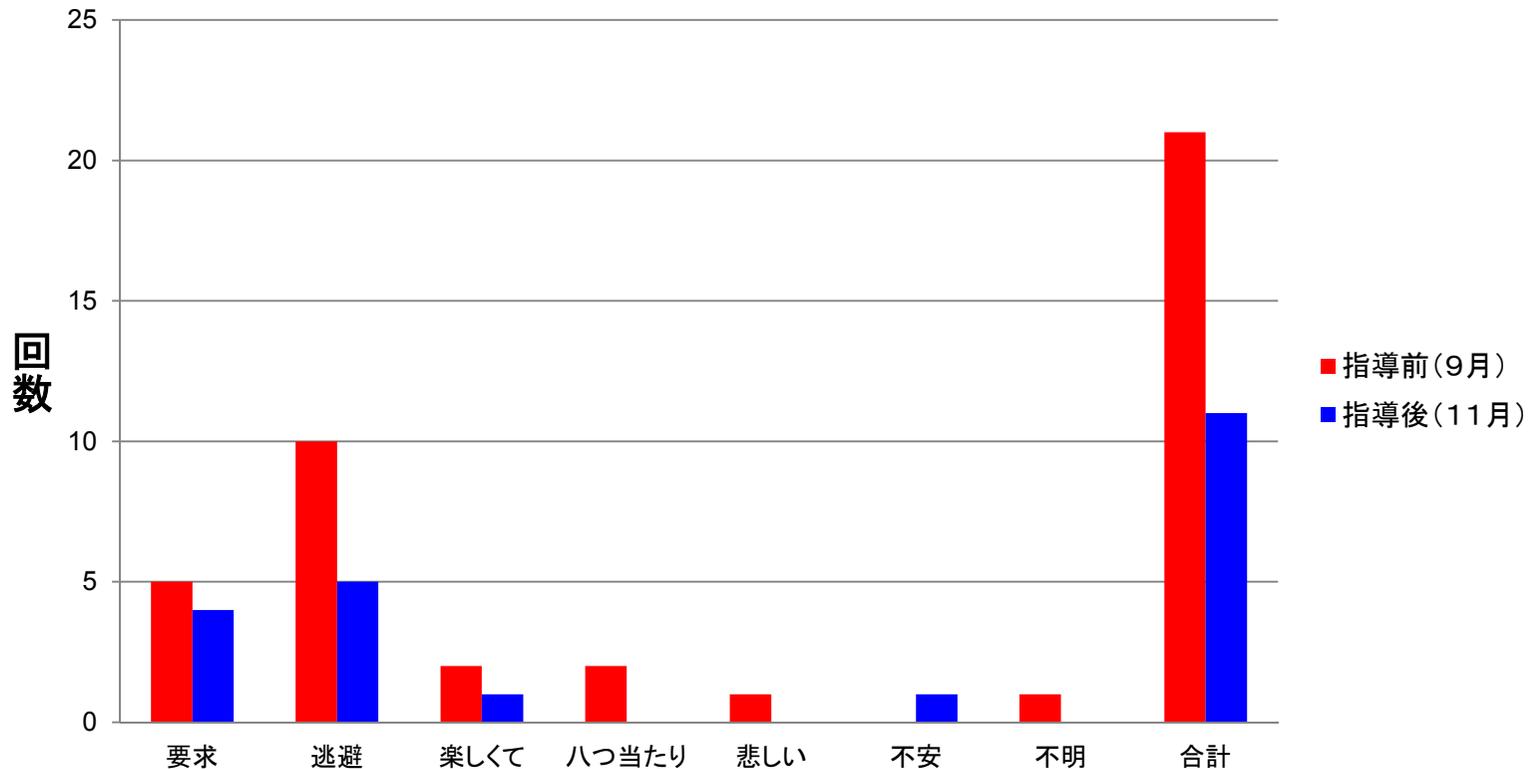
(例)

時間・教科等	どんなときに	行動	どう対処したか
課題の時間	〇〇の課題の2回目を行ったときに。	教員の手をひっかく。	「課題します。」とことばかけをして、教材を渡す。
		課題に取り組む。	「できたね。」と褒める。

指導の成果

用意したコミュニケーションカードを使って要求を伝えることができるようになり、1週間における他害行動の回数は21回から11回に減少しました。

推定される他害の原因と回数の変化



結果1: 問題行動の原因別回数

ここが成功のポイント



○問題行動をコミュニケーション(要求)に置き換えて指導をする。

○見通しの持てるスケジュールや活動を1日の生活の中に取り入れる。